

千葉大学国際教養学部 教育課程編成・実施の方針

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 学生が自主的に自己の学修目標・学修課題を設定し、向上心と向学心を持ってその達成に取り組む学修態度、またそれを支える主体的な学びに基づく学修技法を修得することが可能となる学修機会を提供する。
- 自己の良心と社会の規範を尊重し、高い倫理性をもってグローバルな社会のなかで異なる価値観をもつ他者とともに行動できる姿勢と能力を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 人文社会科学、自然科学、生命科学の諸領域を混合し、その観点から世界の現状を理解するグローバルな視野を育成する。
- 世界における日本の役割を理解し、地球社会と地域社会の持続可能でインクルーシブな発展のために積極的に関与する人間となるため、社会的な学びを重視した学修機会を提供するとともに、多様な留学の機会を提供する。
- 学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

「普遍的な教養」を涵養するために

- 多様な文化・価値観、社会や人類が直面する地球規模の課題に関する普遍教育科目と専門科目を教育課程に含める。
- 人文社会科学、自然科学、生命科学の諸領域を俯瞰的に理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、特定の専門領域にとらわれない幅広いものの見方を修得するための学修機会を提供する。
- 普遍教育と専門教育をつなぐ横断的な学修機会を提供する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 地球的視点から、人間、社会、自然、環境、地域、文化、生命を理解し、人類や社会が直面する課題を認識して、その課題解決に取り組むための学修機会を提供する。
- 人文社会科学、自然科学、生命科学の諸領域を俯瞰的に理解し、グローバルな課題と地域的な課題の解決のために、それらの知識を活用することができる専門的技能を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 「課題から出発して、それに必要な問題領域を探究する」という本学部のコンセプトを達成するために、課題の設定とその解決に具体的にに取り組むことができる知識・技術・方法を修得できる学修機会を提供する。
- グローバルな社会、日本、地域のなかで現実が生じている諸課題の解決を具体的に考え、実行することができるための学修機会を提供する。
- コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、チームワークやリーダー

シップの養成を目指した学修機会を提供する。

- 情報通信技術の活用を含め、必要な情報やデータを適切に収集・分析・活用する方法を修得し、それを実践に移すとともに、効果的かつ適切に情報を発信する能力を育成する学修機会を提供する。
- 英語による議論や発表の実践を通して、多様な価値観を理解し、学修の成果を世界に発信することのできるグローバルな人材を育成する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うためGPA 制度を採用するとともに、事前・事後学修の明示や履修登録単位数の上限設定等により、単位の実質化をはかる。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。